

2017年度 第3四半期決算

投資家様向け説明会



2018年1月30日
オムロン株式会社

発表のポイント

■ 3Q累計実績

- ・ 大幅増収増益を達成。売上高、売上総利益、営業利益は過去最高。
- ・ 制御機器事業が好調で全社の成長を牽引。
- ・ 将来の成長に向けた投資を着実に実行。

■ 通期見通し

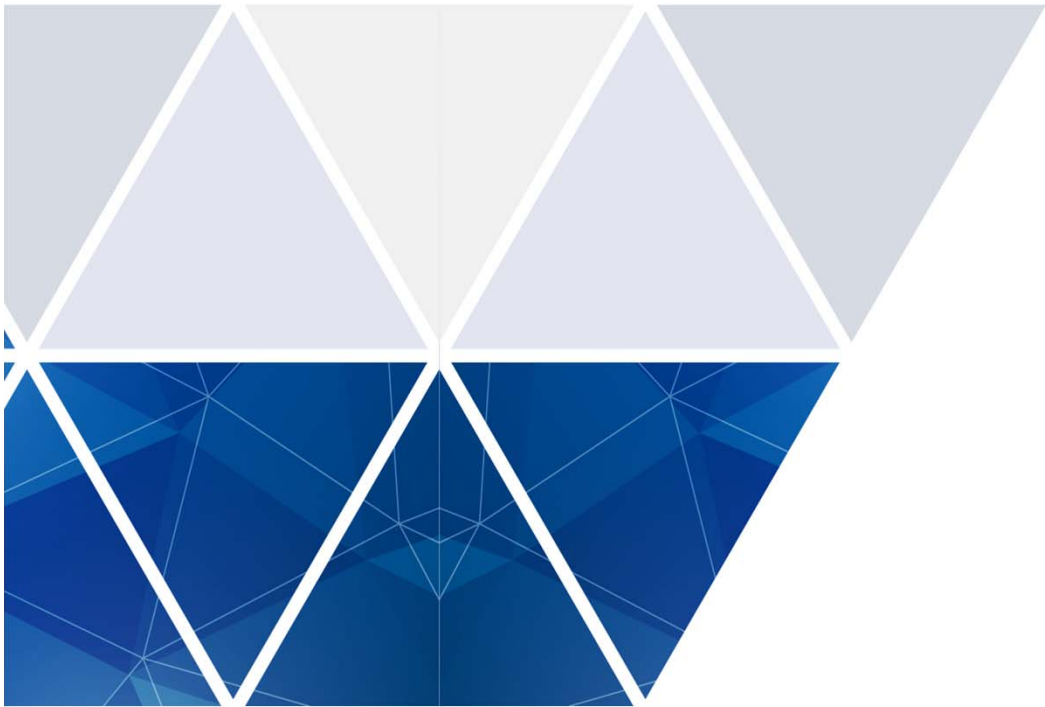
- ・ 4Qも引き続き好調継続。
- ・ 投資を加速する中でも、制御機器事業が牽引し、全社としては前回の通期見通しを達成見込み。
- ・ 特に制御機器事業は好調で当該事業の上方修正を実施。
(一方、本社直轄事業を下方修正)

■ ヘルスケア事業(HCB)の事業戦略

- ・ ヘルスケア事業は制御機器事業に次ぐ柱であり、全社を牽引する事業。

目次

| | |
|-----------------------------|--------------|
| 1. 3Q累計実績 | P. 3 |
| <hr/> | |
| 2. 通期見通し | P. 9 |
| <hr/> | |
| 3. ヘルスケア事業(HCB)の事業戦略 | P. 16 |



3Q累計実績



3Q累計実績

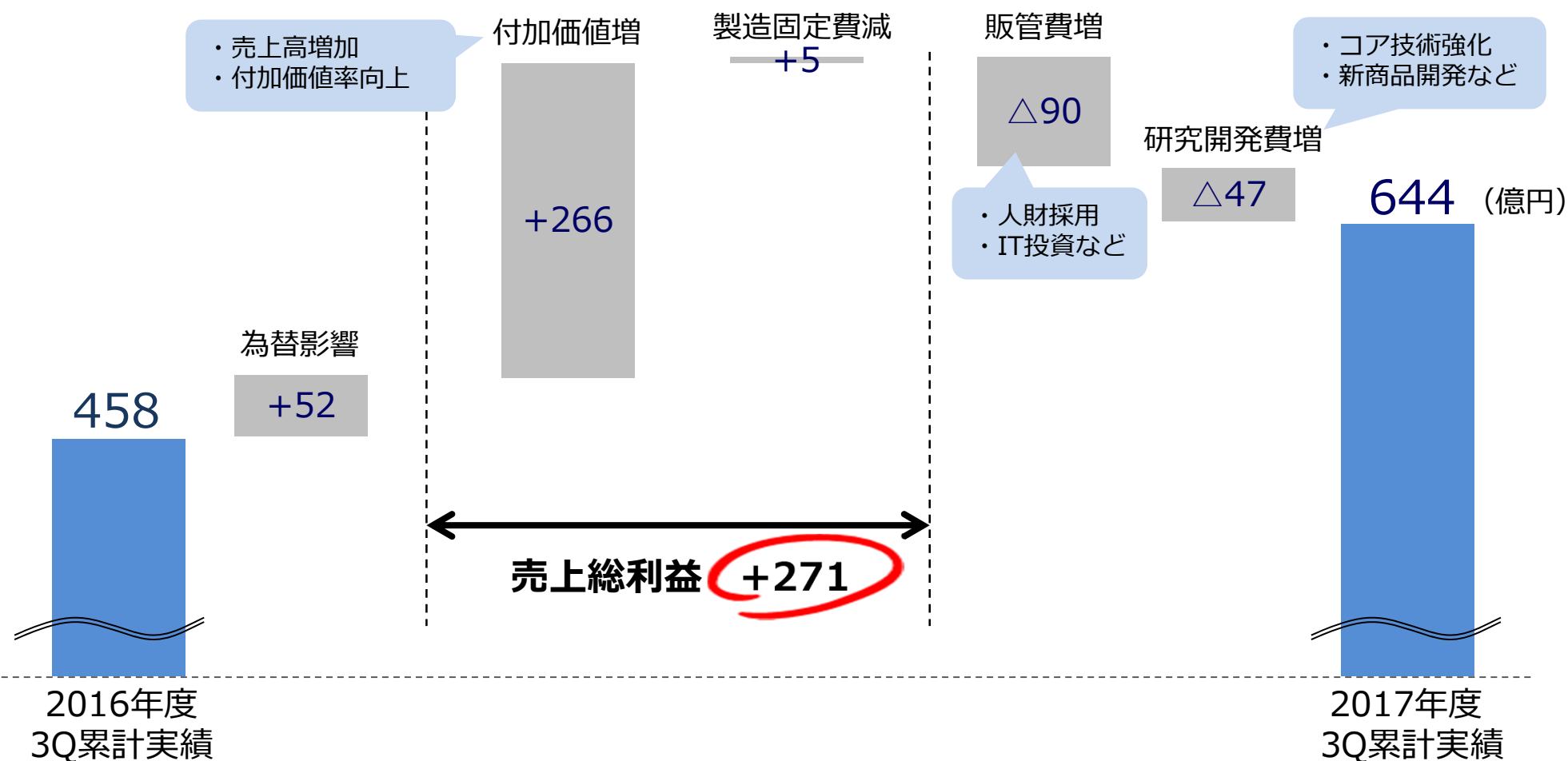
**大幅増収増益を達成。売上高、売上総利益、営業利益は過去最高。
売上総利益率は41.7%。稼ぐ力を向上。**

(億円)

| | 2016年度 3Q累計実績 | 2017年度 3Q累計実績 | 前年同期比・差 |
|---------------------|------------------|-------------------------|-------------------|
| 売上高 | 5,687 | 6,249 | +9.9% |
| 売上総利益 (売上総利益率) | 2,240 (39.4%) | 2,608 (41.7%) | +16.4% (+2.3P) |
| 営業利益 (営業利益率) | 458 (8.1%) | 644 (10.3%) | +40.5% (+2.2P) |
| 当社株主に帰属する 四半期純利益 | 306 | 467 | +52.4% |
| USDレート (円) | 106.9 | 111.7 | +4.8 |
| EURレート (円) | 118.7 | 127.9 | +9.2 |

営業利益増減 (前年同期差)

売上高増加・付加価値率向上により、売上総利益は大幅増加。
それを原資に、将来の成長に向けた投資を積極的に行う中でも大幅増益。



事業セグメント別 売上高

制御機器事業が20%を超える増収を達成。

電子部品事業、ヘルスケア事業*も10%を超える成長を実現。

(億円)

| | 2016年度 3Q累計実績 | 2017年度 3Q累計実績 | 前年同期比 |
|-------------------|------------------|------------------|------------------|
| 制御機器事業 (IAB) | 2,400 | 2,921 | +21.7% |
| 電子部品事業 (EMC) | 689 | 777 | +12.8% |
| 車載事業 (AEC) | 969 | 976 | +0.7% |
| 社会システム事業 (SSB) | 309 | 310 | +0.2% |
| ヘルスケア事業 (HCB) | 760 | 820 | +8.0% *(+13%) |
| 本社直轄事業 (その他事業) | 523 | 416 | △20.3% |
| 本社他 (消去調整含む) | 38 | 29 | △23.7% |
| 合計 | 5,687 | 6,249 | +9.9% |

* 旧オムロン
コーリン社除く

※経営管理区分の見直しのため、社会システム事業(SSB)傘下の一部を本社直轄事業(その他事業)の事業セグメントに含めて開示しています

事業セグメント別 営業利益

特に制御機器事業が大幅増益。
電子部品事業、ヘルスケア事業も大幅増益。

(億円、%：営業利益率)

| | 2016年度 3Q累計実績 | 2017年度 3Q累計実績 | 前年同期差 |
|-----------------------------|------------------|------------------|-----------------|
| 制御機器事業 (I A B) | 371 (15.4%) | 552 (18.9%) | +182 (+3.5P) |
| 電子部品事業 (E M C) | 71 (10.4%) | 108 (13.9%) | +37 (+3.6P) |
| 車載事業 (A E C) | 49 (5.0%) | 43 (4.4%) | △6 (△0.7P) |
| 社会システム事業 (S S B) | △ 35 (-) | △ 33 (-) | +2 (-) |
| ヘルスケア事業 (H C B) | 76 (10.0%) | 102 (12.4%) | +26 (+2.4P) |
| 本社直轄事業 (その他事業) | △ 13 (-) | △ 11 (-) | +2 (-) |
| 本社他 (消去調整含む) | △ 60 | △ 117 | △ 56 |
| 合計 | 458 (8.1%) | 644 (10.3%) | +186 (+2.2P) |

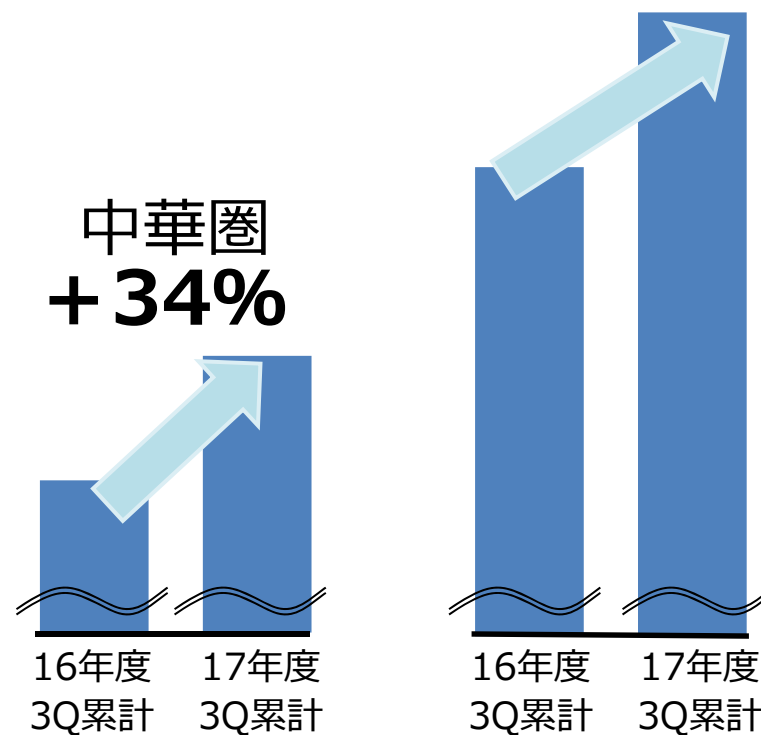
※経営管理区分の見直しのため、社会システム事業(SSB)傘下の一部を本社直轄事業(その他事業)の事業セグメントに含めて開示しています

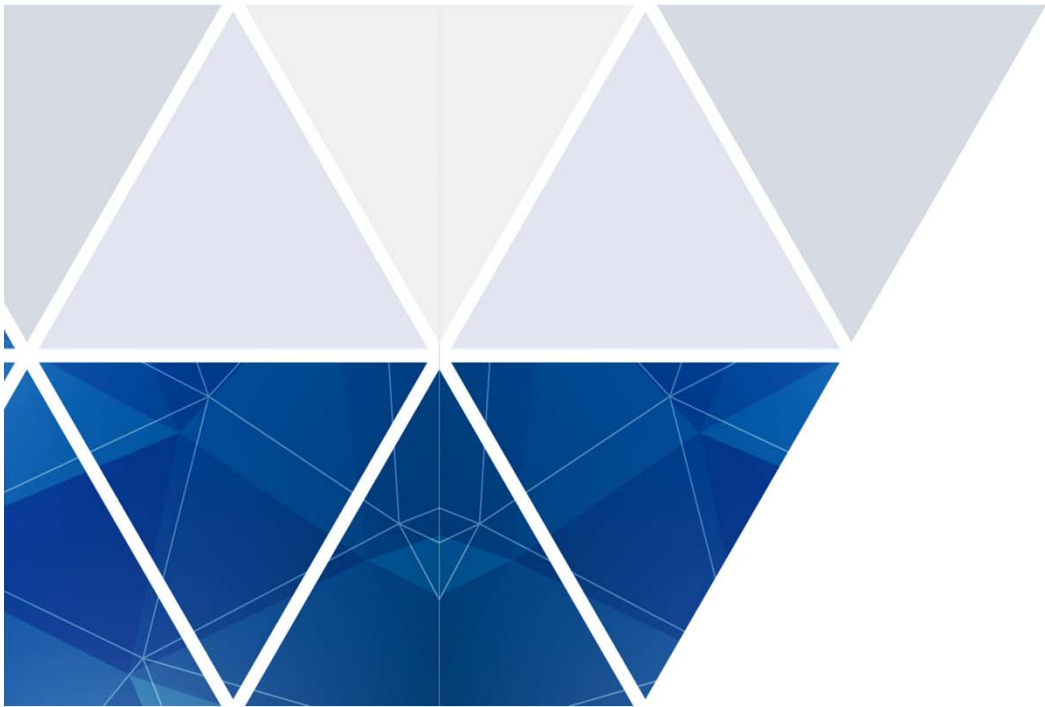
制御機器事業 注力業界での高成長

**3Q累計 グローバル
注力4業界売上高 +25%**
(前年同期比、現通ベース)



**日/米/欧/アジア
+22%**





通期見通し



4Q グローバル/エリア別 事業環境認識

グローバル経済は緩やかな回復基調が継続。

<国内>

半導体・自動車業界における設備投資拡大が牽引し、引き続き堅調。

<海外>

米州 : 米国自動車業界の調整局面に変化はないが、全般的な景気回復は継続。

欧州 : 設備投資や生産の拡大が続き、緩やかな回復が継続。

中国 : 政府主導の投資抑制政策により、成長率の鈍化は継続。

アジア : 韓国は好調継続、タイ・インドの景気回復は継続。

4Q 事業セグメント別 事業環境認識

| | |
|-----------------------------|--|
| 制御機器事業 (I A B) | <p>国内：自動車、半導体が引き続き堅調。 海外：中国・アジアは上期比では一服感があるものの、総じて好調。 欧州は堅調継続。米州は自動車、半導体が堅調。</p> |
| 電子部品事業 (E M C) | <p>民生：半導体・産業機器需要は引き続き好調。中国は家電需要が好調。 車載：欧州は堅調継続、アジアは二輪向け需要が堅調。</p> |
| 車載事業 (A E C) | <p>国内：市場環境の回復により堅調継続。 海外：中国は概ね横ばい。米国は底堅く横ばい。</p> |
| 社会システム事業 (S S B) | <p>駅務：更新需要一巡により引き続き軟調。 交通：更新需要は堅調継続。</p> |
| ヘルスケア事業 (H C B) | <p>国内：オンライン市場を中心に堅調継続。 海外：中国、アジアなど新興国での健康志向の高まりにより堅調継続。</p> |
| 本社直轄事業 (その他事業) | <p>環境：再生エネルギー市場は低調継続。 バックライト：ハイエンドバックライト市場は横ばい。</p> |

通期見通し

投資を加速する中でも、制御機器事業が牽引し、全社としては前回の通期見通しを達成見込み。よって、見通しは据え置く。VG2.0の達成に向けて業績は順調に進捗。

(億円)

| | 2016年度 実績 | 2017年度 見通し(前回・今回) | 前年度比・差 |
|--------------------|------------------|----------------------|-------------------|
| 売上高 | 7,942 | 8,500 | +7.0% |
| 売上総利益 (売上総利益率) | 3,118 (39.3%) | 3,535 (41.6%) | +13.4% (+2.3P) |
| 営業利益 (営業利益率) | 676 (8.5%) | 850 (10.0%) | +25.8% (+1.5P) |
| 当社株主に帰属する 当期純利益 | 460 | 590 | +28.3% |
| USDレート (円) | 108.9 | 111.3 | +2.4 |
| EURレート (円) | 119.4 | 127.9 | +8.5 |

※ 4Qにおける為替レート的前提は、USD110円、EUR128円

事業セグメント別 売上高

制御機器事業の上方修正を実施。一方、本社直轄事業は下方修正。
制御機器事業に加え、ヘルスケア事業も着実に成長し、全社を牽引。

(億円)

| | 2017年度 前回見通し | 2017年度 見通し | 前回見通し差 | 2016年度 実績 | 前年度比 |
|-------------------|-----------------|---------------|--------|--------------|------------------|
| 制御機器事業 (IAB) | 3,880 | 3,930 | +50 | 3,310 | +18.7% |
| 電子部品事業 (EMC) | 995 | 995 | ±0 | 939 | +5.9% |
| 車載事業 (AEC) | 1,295 | 1,295 | ±0 | 1,321 | △1.9% |
| 社会システム事業 (SSB) | 635 | 635 | ±0 | 619 | +2.6% |
| ヘルスケア事業 (HCB) | 1,085 | 1,085 | ±0 | 1,013 | +7.1% *(+11%) |
| 本社直轄事業 (その他事業) | 570 | 520 | △50 | 685 | △24.1% |
| 本社他 (消去調整含む) | 40 | 40 | ±0 | 55 | △28.0% |
| 合計 | 8,500 | 8,500 | ±0 | 7,942 | +7.0% |

※社会システム事業(SSB)傘下の一部を本社直轄事業(その他事業)の事業セグメントに含めて開示しています

*旧オムロンコーリン社除く

事業セグメント別 営業利益

制御機器事業は上方修正する一方、車載事業・本社直轄事業は下方修正。
 制御機器事業を中心に、電子部品事業・ヘルスケア事業も全社の増益に貢献する見込み。

(億円、%：営業利益率)

| | 2017年度 前回見通し | 2017年度 見通し | 前回見通し差 | 2016年度 実績 | 前年度差 |
|-------------------|-----------------|----------------|----------------|----------------|-----------------|
| 制御機器事業 (IAB) | 715 (18.4%) | 730 (18.6%) | +15 (+0.1P) | 520 (15.7%) | +210 (+2.9P) |
| 電子部品事業 (EMC) | 120 (12.1%) | 120 (12.1%) | ±0 (±0P) | 94 (10.0%) | +26 (+2.0P) |
| 車載事業 (AEC) | 65 (5.0%) | 60 (4.6%) | △5 (△0.4P) | 71 (5.4%) | △11 (△0.8P) |
| 社会システム事業 (SSB) | 40 (6.3%) | 40 (6.3%) | ±0 (±0P) | 37 (6.0%) | +3 (+0.3P) |
| ヘルスケア事業 (HCB) | 105 (9.7%) | 105 (9.7%) | ±0 (±0P) | 85 (8.4%) | +20 (+1.3P) |
| 本社直轄事業 (その他事業) | △15 (-) | △25 (-) | △10 (-) | △18 (-) | △6 (-) |
| 本社他(消去調整含む) | △180 | △180 | ±0 | △113 | △66 |
| 合計 | 850 (10.0%) | 850 (10.0%) | ±0 (±0P) | 676 (8.5%) | +174 (+1.5P) |

※社会システム事業(SSB)傘下の一部を本社直轄事業(その他事業)の事業セグメントに含めて開示しています

お伝えしたいポイント

制御機器事業は成長業界への注力と
i-Automation!が奏功し、業績が好調

ヘルスケア事業は制御機器事業とともに
全社の成長を牽引

稼ぐ力の向上で獲得した原資を積極的に投資する
サイクルを構築し、将来の成長構造作りの加速と
同時に収益性を向上



ヘルスケア事業(HCB)の 事業戦略



ヘルスケア事業(HCB) の位置づけ

注力4ドメインの中でも、FAとともに特に注力するドメイン。

FA



ヘルスケア



モビリティ



エネルギー管理



ヘルスケア事業(HCB)のミッション

**地球上の一人ひとりの健康で
すこやかな生活への貢献**

All for Healthcare

ヘルスケア領域の社会的課題

先進国および新興国での社会変化に伴う新たな課題の出現により、医療費増大が深刻化する。

社会変化



先進国に加え、
新興国でも中間層が増加



先進国での高齢化の進展

新たな課題



生活習慣病患者の増加



寿命と健康寿命のギャップが拡大

社会的課題



医療費の増大

ヘルスケア事業(HCB) がフォーカスする3領域

強みを最大限に活かすことができ、グローバルにおいて十分な市場規模がある
3領域でパーソナライズ医療の実現による社会的課題の解決を目指す。

循環器疾患

^{*1}
脳・心血管イベント患者

1,750 万人

^{*4}
循環器疾患医療費

120 兆円

呼吸器疾患

^{*2}
世界の呼吸器疾患患者

4.4 億人

^{*5}
日米欧 呼吸器疾患医療費

19 兆円

ペインマネジメント

^{*3}
日米 慢性疼痛患者数

7,300 万人

^{*6}
日米 鎮痛剤市場

2.4 兆円

*1 WHO報告より *2 International Respiratory Societies報告より *3 Pain in Japan (日本)、National Health Interview (米国) より

*4 世界銀行並びにOECDのデータを基に推計 *5 厚生省公表データ、欧州呼吸器学会データ、Creative Biotech Inc調査を基に推計

*6 世界鎮痛剤市場調査2013より

ヘルスケア事業(HCB)の基本戦略


3つのコアカテゴリーの最強化

血圧計


ネブライザ

ペインマネジメント

「脳・心血管疾患の発症ゼロ(ゼロイベント)」
への取り組み



3つの コアカテゴリの 最強化



3つのコアカテゴリーの最強化

3つのコアカテゴリーにおいて、圧倒的シェアNO.1を目指す。

【循環器】

家庭用血圧計



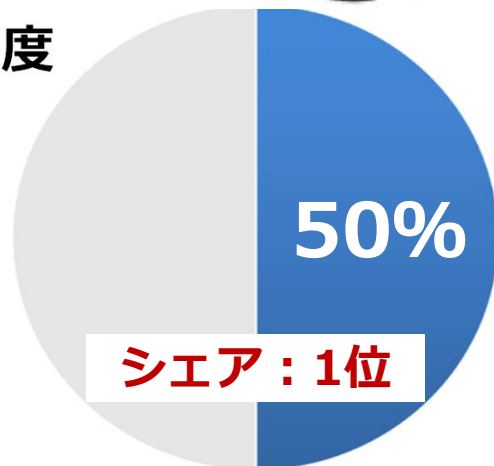
【呼吸器】

ネブライザ



【ペインマネジメント】

低周波治療器

2016年度
実績2020年度
目標

55%以上

40%以上

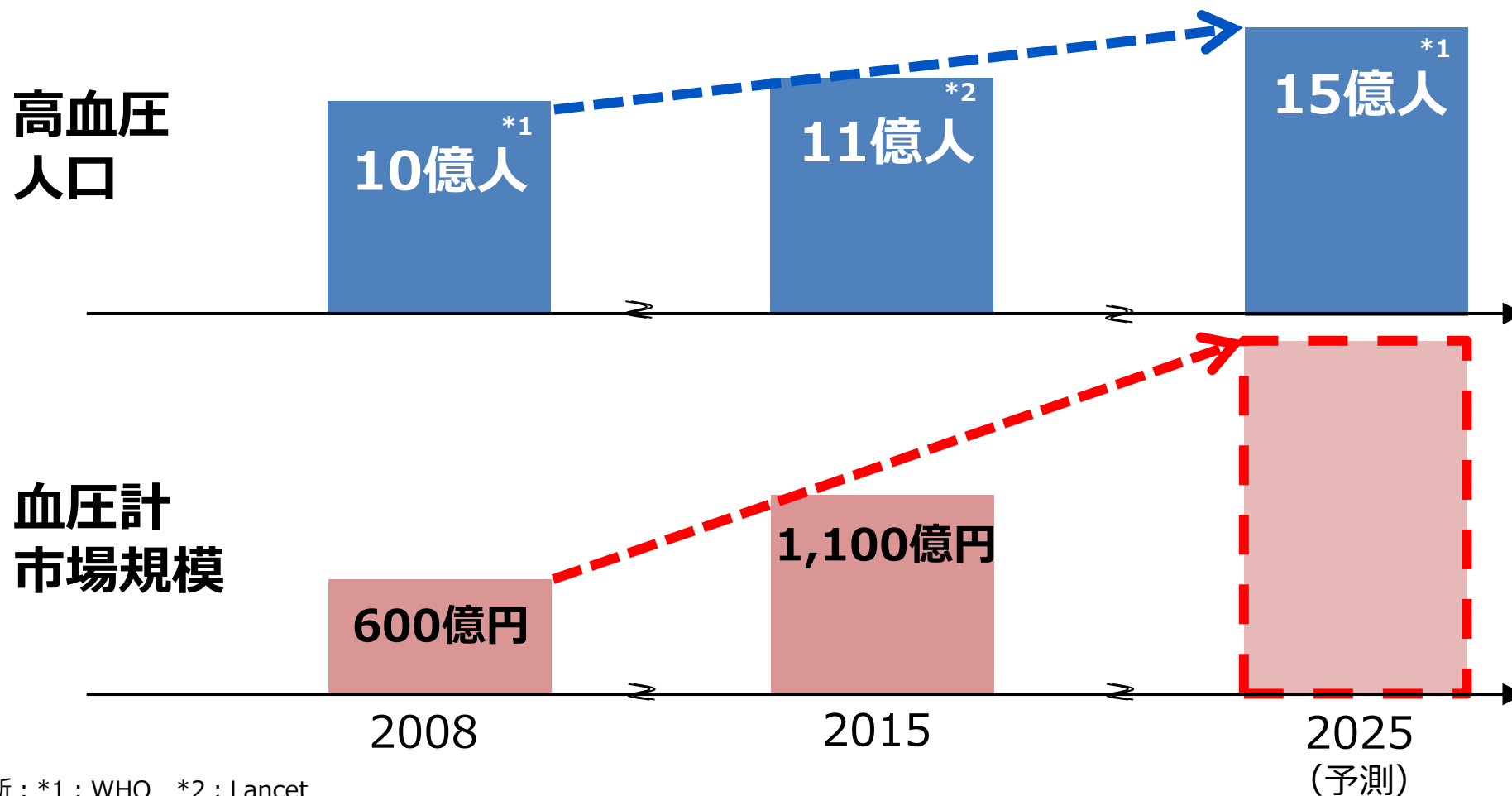
45%以上

出所：GFK、ニールセンデータ等、各国の外部調査結果をベースに自社推計

*血圧計・ネブライザは世界シェア、低周波治療器は日本・米国の合算シェア（金額ベース）

拡大が見込まれる血圧計市場

世界の高血圧人口は年々増加。2025年には15億人にまで増えるとも言われている。加えて、健康意識の高まりにより血圧計の市場規模はさらに高い伸び率が見込まれる。



出所：*1：WHO *2：Lancet

強み

医療機器であるため事業展開には様々な要件が求められる。
血圧計事業を40年以上展開することで獲得した以下の3つが強み。

- ① 許認可取得ノウハウ（＝参入障壁）
- ② 高い精度に基づく医学界からの信頼
- ③ チャネル基盤

強み① 許認可取得ノウハウ（参入障壁）

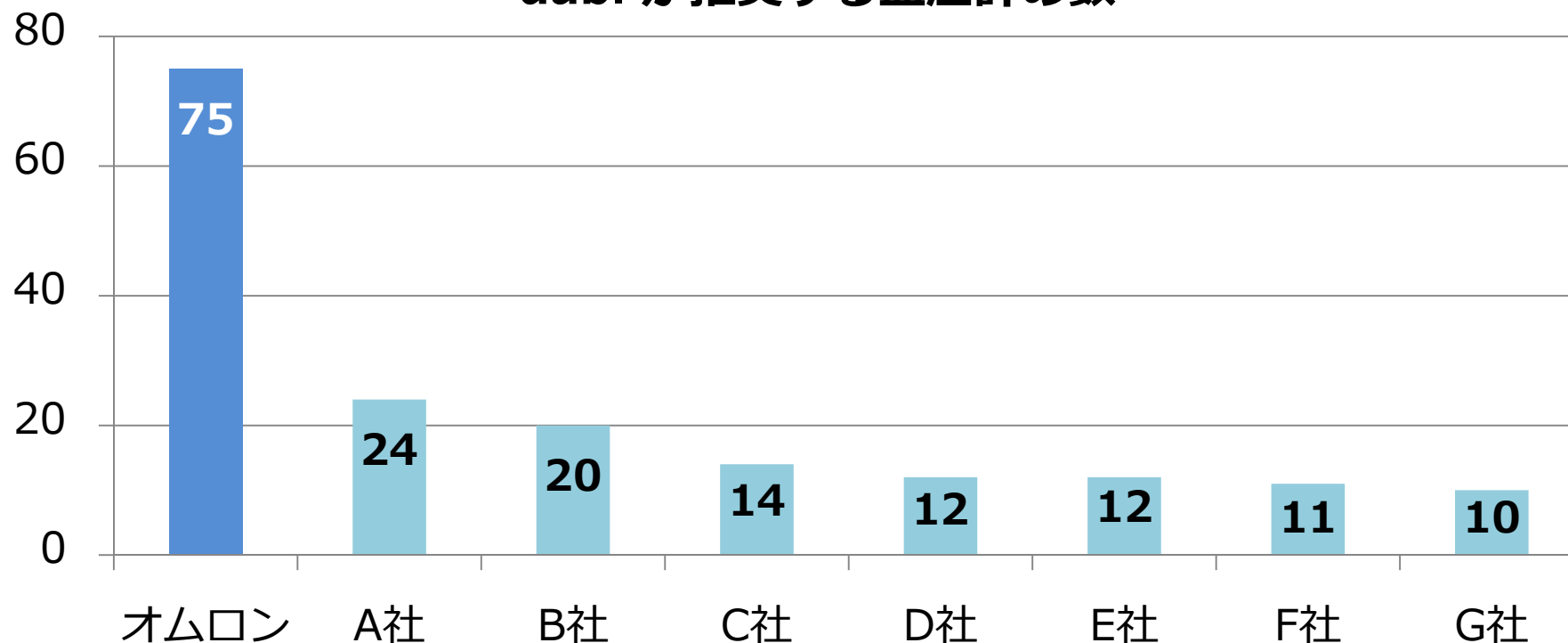
グローバル 117カ国に販売。うち 90カ国で許認可取得が必要。
各国から要求される安全性と有効性を満たし、血圧計を世界中で販売。



強み② 高い精度に基づく医学界からの信頼

オムロンの血圧計は多くの論文で高い精度が認められており、医師が血圧計を選択する際に参考にする第三者機関 dabl から最も多くの推奨を獲得している。

dabl が推奨する血圧計の数



検索条件：dabl Educational Trust より、Upper Arm Devices & Wrist Devices for Self -measurement of Blood Pressure
検索日：2016年3月 その他：5件以上登録のあるメーカーのみ表示
自社調べ

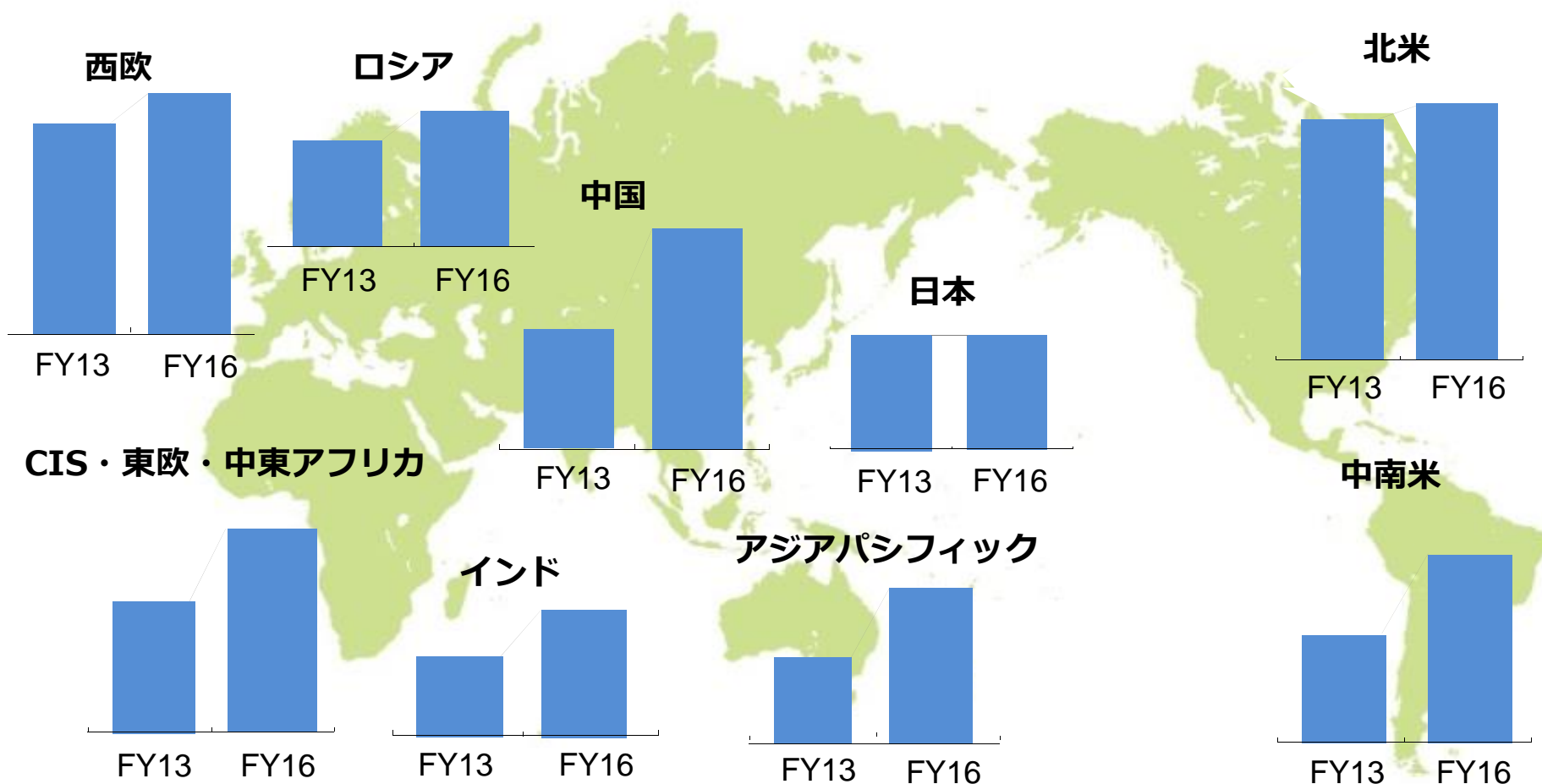
強み② 高い精度に基づく医学界からの信頼

オムロンの血圧計は、WHOの家庭血圧基準決定の基となった大迫研究をはじめ、世界中の大規模臨床研究で使われている。



強み③ チャネル基盤（薬局・薬店における取扱い店舗の拡大）

新興国エリアを中心に取り扱い店舗をさらに拡大。
(FY13 36万店 → FY16 46万店)



強み③ チャネル基盤（拡大するオンラインにも対応）

大手ECサイト アマゾンの血圧計人気商品ランキングで上位を占有。

(2018年1月19日 現在)

Amazon.co.jp

Amazon.com

上腕式血圧計の売れ筋ランキング


Amazon.co.jpの売れ筋ランキング。ランキングは1時間ごとに更新されます。

| | |
|---|--|
| <p>1. オムロン 電子血圧計 上腕式 腕帯巻きタイプ HEM-7123</p> <p>オムロン</p> <p>★★★★☆ 157</p> | <p>6. オムロン 上腕式血圧計 HEM-9713</p> <p>★★★★☆ 40</p> |
| <p>2. オムロン デジタル自動血圧計 HEM-7111</p> <p>★★★★☆ 162</p> | <p>7. オムロン 電子血圧計 上腕式 OMRON connect対応 HEM-7282T</p> <p>★★★★☆ 55</p> |
| <p>3. オムロン 電子血圧計 上腕式 腕帯巻きタイプ HEM-7123</p> <p>★★★★☆ 49</p> | <p>8. 他社商品</p> |
| <p>4. オムロン デジタル自動血圧計 HEM-1021</p> <p>★★★★☆ 60</p> | <p>9. 他社商品</p> |
| <p>5. オムロン 電子血圧計 上腕式 腕帯巻きタイプ HEM-7200</p> <p>★★★★☆ 322</p> | <p>10. オムロン 上腕式血圧計 HEM-7131</p> <p>★★★★☆ 151</p> |

| | | |
|--|--|---|
| <p>Best Sellers in Blood Pressure Monitors</p> <p>1. Omron BP742N 5 Series Upper Arm...</p> <p>★★★★☆ 5,157</p> | <p>2. 他社商品</p> | <p>3. Omron 10 Series Wireless Bluetooth...</p> <p>★★★★☆ 7,056</p> |
| <p>4. 付属品</p> | <p>5. 他社商品</p> | <p>6. Omron 3 Series Upper Arm Blood Pressure...</p> <p>★★★★☆ 1,900</p> |
| <p>7. Omron 10 Series Upper Arm Blood...</p> <p>★★★★☆ 1,995</p> | <p>8. Omron 7 Series Wrist Blood Pressure...</p> <p>★★★★☆ 10,882</p> | <p>9. 他社商品</p> |
| <p>10. 他社商品</p> | | |

売れ筋トップ10に8商品ランクイン

売れ筋トップ10に5商品ランクイン



脳・心血管疾患の 発症ゼロ (ゼロイベント)

循環器疾患領域における事業ビジョン



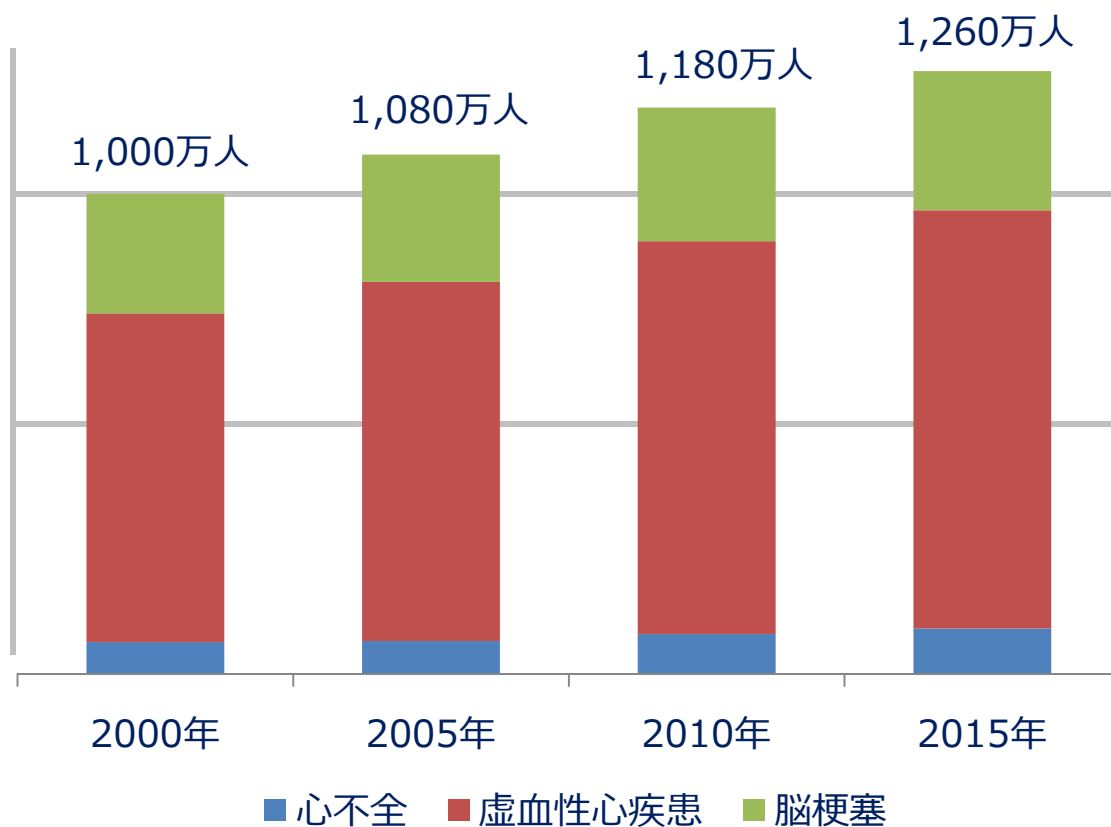
オムロンヘルスケアは『**ゼロイベント**』を目指します。

『**ゼロイベント**』とは、**脳卒中や心筋梗塞**など、**高血圧が原因**で起こる、**生死につながり寝たきり**などの**原因となる疾患（イベント）**を、**ゼロ**にすること。

脳・心血管疾患の死亡者数の推移

脳・心血管疾患による死亡者数は増加し続けている。

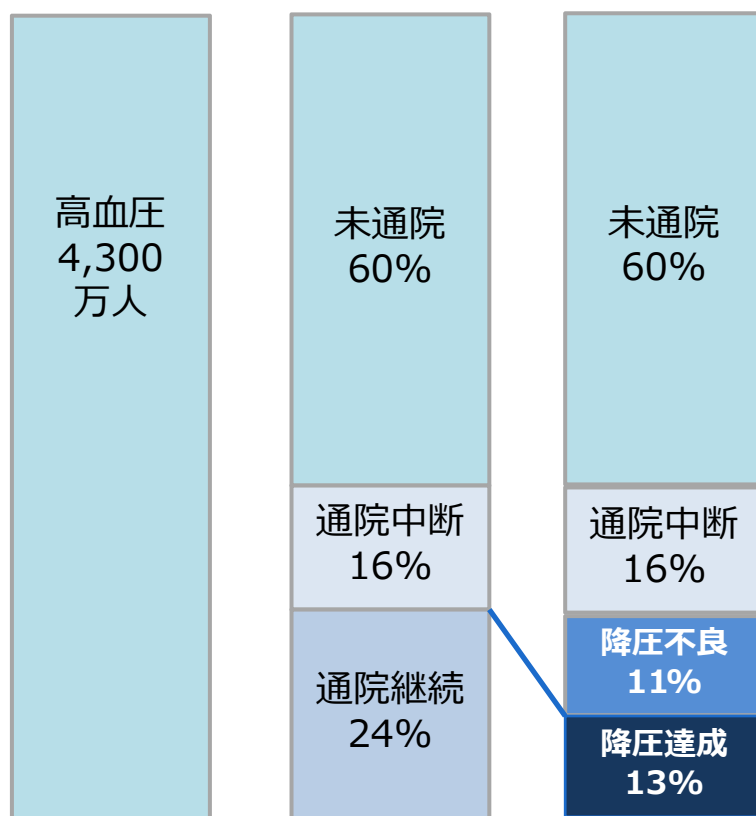
脳・心血管イベントによる死者数(グローバル)*1



*1:WHO Global Health Estimates2015

高血圧治療における課題（日本の事例）

脳・心血管疾患の主な原因である高血圧症患者の降圧達成率は、13%に留まる。
今後、降圧達成率を向上させるには、
(1) 患者の行動変容支援、(2) パーソナライズされた診断/治療が必要。

**行動変容**

「通院する」「服薬する」「継続する」

パーソナライズされた診断/治療

出所：NPO高血圧改善フォーラム

*** 服薬患者の半数しか降圧できていない**

ヘルスケア事業(HCB)が目指す高血圧治療の革新

革新的なデバイスで血圧計測のハードルを下げるとともに様々なバイタルデータの取得を可能にする。さらに、取得したバイタルデータを蓄積、解析することで、高血圧治療を革新し得る診断・治療サービスを提供し、ゼロイベントを実現する。

革新的デバイスの提供

血圧
活動
睡眠
心電図



患者

・行動変容支援
・パーソナライズ医療

診断・治療支援サービス



医師

データ蓄積・解析



高血圧治療を次のステージへ導く第一歩（AliveCor社との協創）

新デバイスにより取得できる生体・行動情報データを拡大し、心疾患の診断と治療の高度化により、ゼロイベントを実現させる。

AliveCor社の強み

- ・モバイル心電計(FDA認可)
心房細動の確定診断が可能



- ・心疾患専門医および患者向
サービスプラットフォーム



オムロンの強み

- ・デバイス開発力

本体・カフー体型
チューブレス血圧計
(17年3月発売)



新デバイス
(例)

ウェアラブル血圧計
(米国で18年中発売
に向け開発中)



- ・アルゴリズム開発力
 - 診断アルゴリズム
 - 最適投薬アルゴリズム

協創する内容

- ・心電+血圧計の開発
(FDA認可予定)

新デバイス
(例)



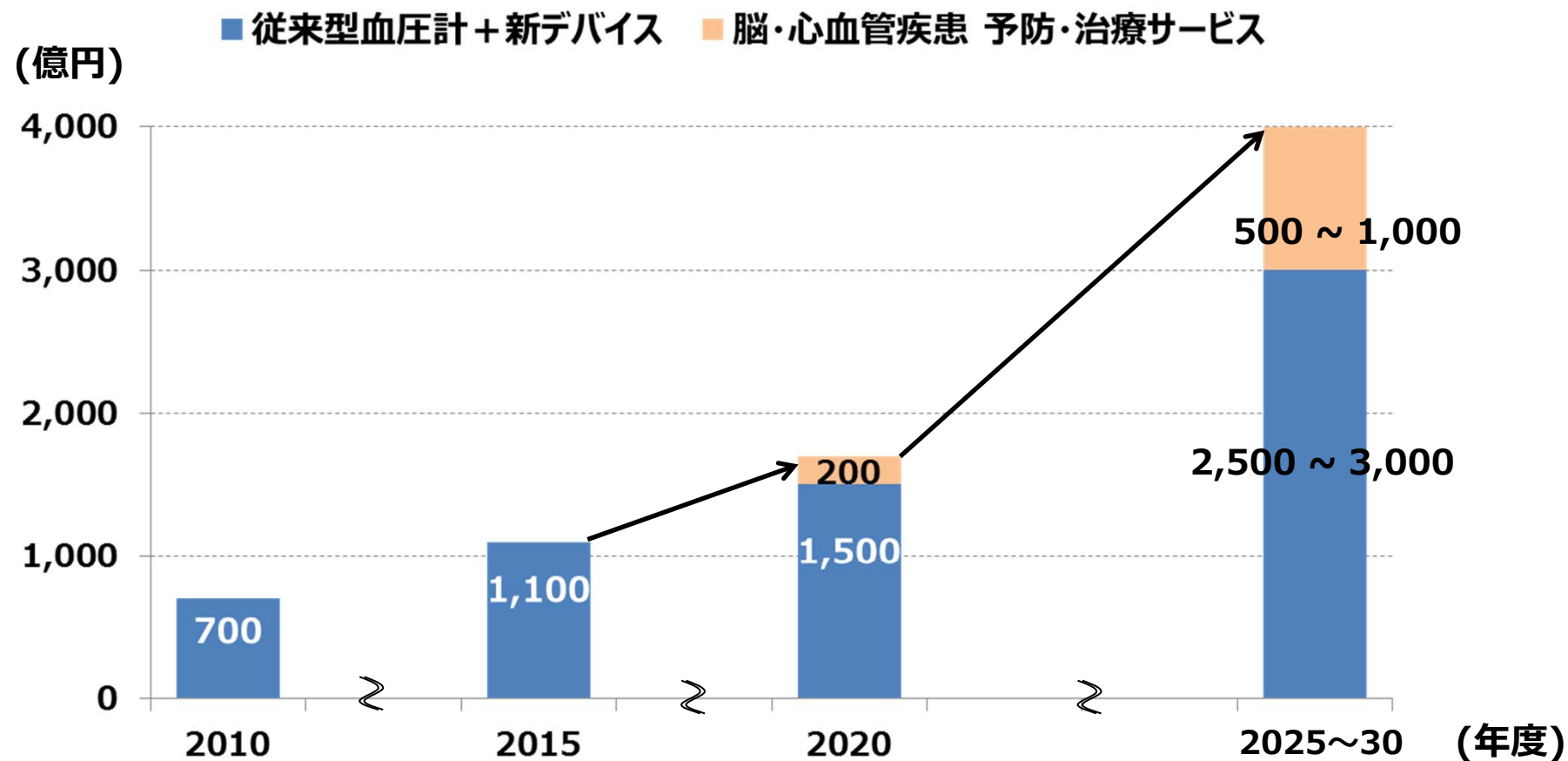
- ・心電+血圧データを用いた
サービスプラットフォーム開発
(FDA認可予定)

新サービス



血圧関連事業のポテンシャルマーケット

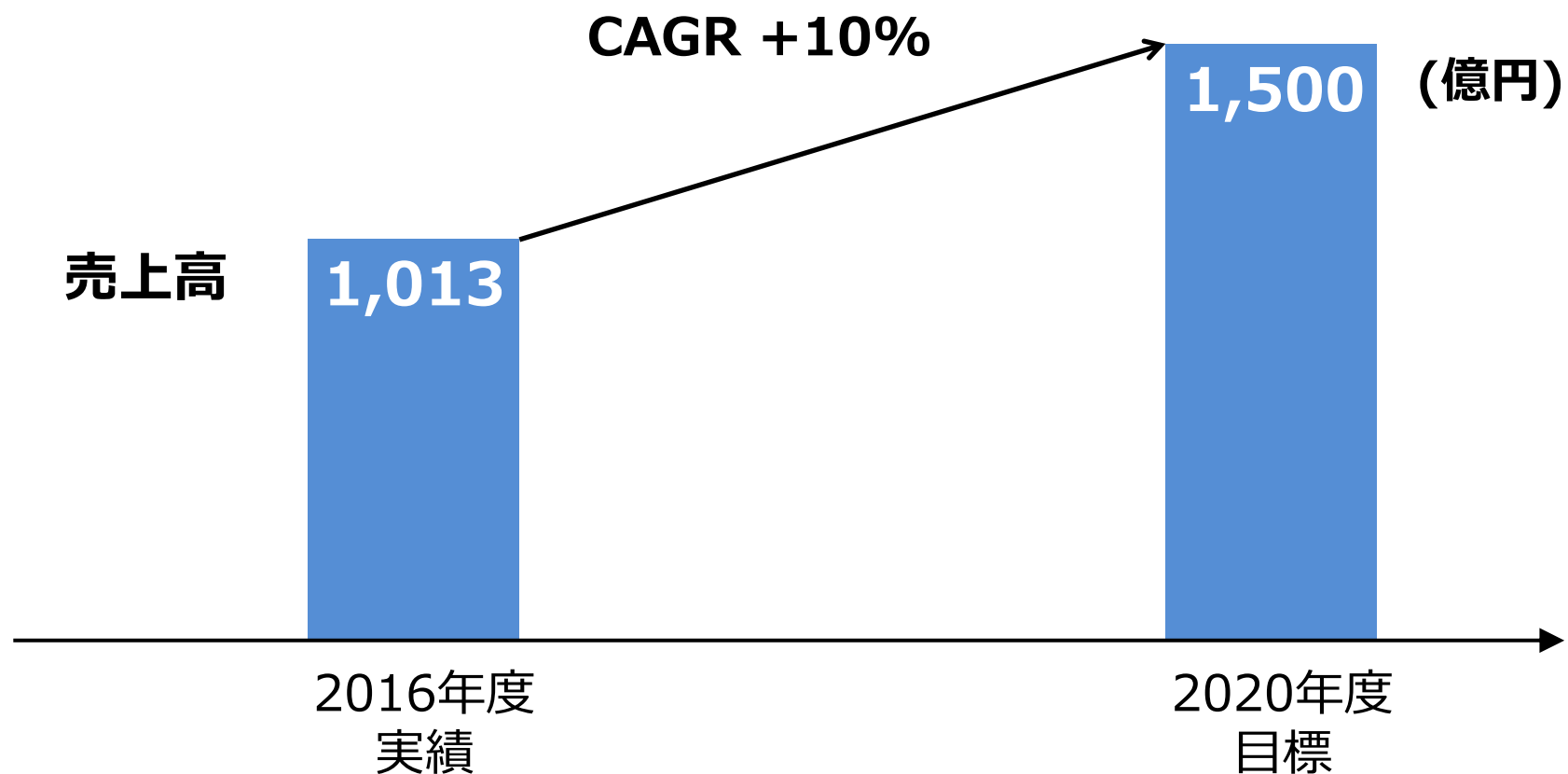
高血圧患者の増加、パーソナライズ医療に向けた測定機器の高機能化、サービス市場の立ち上がりにより、血圧関連事業のポテンシャルマーケットは拡大。



*自社推計

ヘルスケア事業(HCB) 2020年度目標

3つのコアカテゴリー最強化とともに、ゼロイベントの取り組みを加速し、2020年度まで年間伸び率 10%の成長を実現する。



【トピックス】 統合レポート2017

オムロンの統合レポート2017が多方面から評価を受け、様々な賞を受賞。

WICIジャパン
統合報告優良企業表彰

大賞

日経アニュアルリポート
アワード

グランプリ

GPIFの運用機関が選ぶ
優れた統合報告書

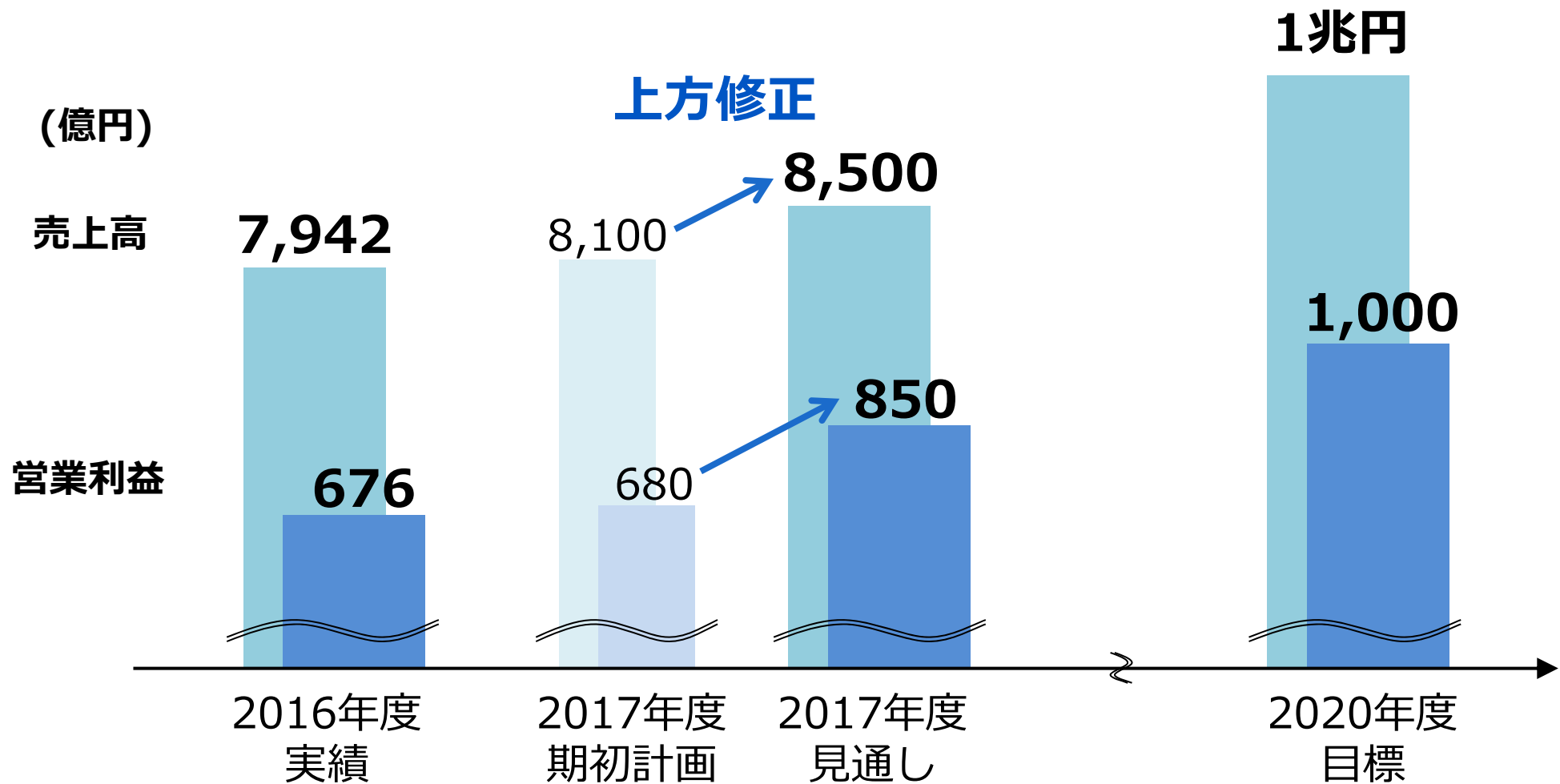
「特に優れた統合報告書」
「特に改善度の高い統合報告書」
の両方に選出



<http://www.omron.co.jp/ir/irlib/annual.html>

最後に

VG2.0の達成に向けて2017年度は好スタート。



OMRON



参考資料



4Q 為替前提

| | 為替前提 | 1円変動による影響額（通期） | |
|-----|-------------|----------------|------|
| | | 売上高 | 営業利益 |
| USD | 110円 | 約35億円 | 約5億円 |
| EUR | 128円 | 約9億円 | 約5億円 |

※ 新興国通貨等がUSD、EURに想定通り連動しなかった場合、感応度に影響を与えます。

6つの経営指標

| | 2016年度 実績 | 2017年度 見通し | 2020年度 目標 |
|-----------|-----------------|-----------------|--------------|
| 売上高 | 7,942億円 | 8,500億円 | 1兆円 |
| 売上総利益率 | 39.3% | 41.6% | 41%以上 |
| 営業利益 | 676億円 | 850億円 | 1,000億円 |
| ROIC | 10.3% | 12%前後 | 10%以上 |
| ROE | 10.1% | 12%前後 | 10%以上 |
| EPS | 215.1円 | 277.0円 | 300円以上 |
| USD / EUR | 108.9円 / 119.4円 | 111.3円 / 127.9円 | 110円 / 118円 |

「VG2.0」とサステナビリティ戦略の関係

企業理念

経営のスタンス・サステナビリティ方針

VG2.0

事業戦略

1. 注力ドメインを再設定し事業を最強化
2. ビジネスモデルの進化
3. コア技術の強化

×

パートナーとの協創

+

運営機能戦略

人財マネジメント・ものづくり・
リスクマネジメント…

サステナビリティの注力課題領域

事業を通じて解決する社会課題
～ソーシャルニーズへの対応～

FA



ヘルスケア



モビリティ



エネルギー
マネジメント



×

パートナーとの協創



+

ステークホルダーの期待に応える課題

人財
マネジメント



ものづくり



リスク
マネジメント



ヘルスケア サステナビリティ目標 (VG2.0スタート時に設定)

家庭での血圧測定のさらなる拡大と脳・心血管疾患の発症ゼロ (ゼロイベント)、喘息重症化ゼロを目指すことで健康寿命の延長や医療費の削減に貢献し、世界中の一人ひとりの健康ですこやかな生活を実現。

ヘルスケアの取り組み



| 社会的課題 | 2020年度目標・KPI |
|------------------------|-------------------------|
| 高血圧由来の 脳・心血管疾患の発症増加 | 血圧計販売台数：2,500万台/年 |
| 全世界で増加する呼吸器疾患 | ネブライザ+喘鳴測定器販売台数：765万台/年 |

ヘルスケア以外のサステナビリティ目標はこちら

VG2.0との関連 <http://www.omron.co.jp/vg2020/>

目標一覧 http://www.omron.co.jp/sustainability/omron_csr/tasks_goals/

主要ESGインデックスへの組み入れ（2018年1月現在）

サステナビリティ投資の主要な指標の全てに選定。
今後も事業を通じた社会の持続的発展に貢献していく。

<オムロンが選定されているESGインデックス>

- ✓ **DJSI – World**
- ✓ FTSE4Good Index Series
- ✓ MSCI ESG Leaders Indexes
- ✓ MSCI SRI Indexes
- ✓ STOXX Global ESG Leaders indices
- ✓ CDP
- ✓ MS-SRI

GPIF
選定

- ✓ **FTSE Blossom Japan Index**
- ✓ **MSCI ジャパンESG
セレクト・リーダーズ指数**
- ✓ **MSCI 日本株 女性活躍指数**



ROIC逆ツリー展開

現場



KPI

改善ドライバー

注力業界/エリア 売上
 新商品/注力商品 売上
 売価コントロール
 変動費CD額・率
 失敗コスト率

一人当り生産台数
 自動化率 (省人数)

売上高人件費率

在庫月数
 不動在庫月数
 債権/債務月数

設備回転率
 (1/N自動化率)

売上総利益率

付加価値率

製造固定費率

販管費率
 R&D率

運転資金回転率

固定資産回転率

ROS

投下
 資本
 回転率

ROIC

ROIC計算式

<連結貸借対照表>

| 科目 | 年 月 末 |
|-----------|-------|
| 資産の部 | |
| 流動資産 | |
| ... | |
| ... | |
| 有形固定資産 | |
| ... | |
| 投資その他の資産 | |
| ... | |
| 負債の部 | |
| 流動負債 | |
| 短期債務 | |
| ... | |
| ... | |
| 純資産の部 | |
| 株主資本 | |
| ... | |
| ... | |
| ... | |
| 純資産の部合計 | |
| 負債及び純資産合計 | |

当社株主に帰属する
当期純利益

ROIC =

投下資本

投下資本 = 純資産 + 有利子負債

※投下資本は、前年度末実績および当年度の各四半期毎の実績または見通しを平均して算出。

2017~2020年度における想定資本コスト : 6%



<注意事項>

1. 当社の連結決算は米国会計基準を採用しています。
2. 業績予想などは、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまなリスクや不確定な要素などの要因により、異なる可能性があります。
3. 当資料は「平成30年3月期 第3四半期決算短信」に準拠し作成しています。
差額、比率については百万円単位で計算し、四捨五入しています。

<IRに関するお問い合わせ>

オムロン株式会社

グローバルIR・コーポレートコミュニケーション本部
経営IR部

電話 : 03-6718-3421
E-mail : omron_ir@omron.co.jp
HP : www.omron.co.jp